

スマイル タウン

人が好き **笑顔** がステキな街が好き

2021
3・4
月

第312号

みんなでつないだ
50年

★★★★★

日野社会教育センター
Since 1969



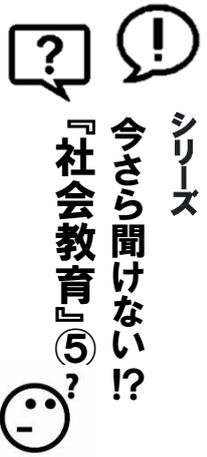
ひの社会教育センターは、市民のみなさまの“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が協定書に基づいて設立しました。今月もセンターで生きがいづくりをされる沢山の市民の方々の活動をお伝えします。

おとな講座 フラダンス

「明るい衣装で気分も明るく、笑顔でアロハ」



- シリーズ「今さら聞けない!? 『社会教育』」⑤
- 表紙の講師は…「フラダンス」講師・アノラニ林 純子先生
- 2021年度 2大イベントのお知らせ
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼



シリーズ

今さら聞けない!?

『社会教育』⑤?



第5回「バックキャスト思考」と

SDGsへの取り組み」

第5回対談は、荒井先生と、ひの社会教育センター職員の本江里子、寺田達也です。(取材・野口久仁子)

現在の中に、未来がある。

“バックキャスト思考”と学び

寺田：先生！先日知った「バックキャスト」という思考法」というものが、これまでずっと話してきたセンターの実践してきたことや、在り様があてはまっていたような内容だったので、今回のテーマとして持ってきました！

荒井：これは「未来から今をとらえる思考法」を指す言葉であるように思われますが、この考え方を議論するときに気を付けないといけないことがあります。それは、将来のために現在を生きたことが現在を貧しくしてしまい、将来をも貧しくしてしまう危険性もあるということです。社会教育協会の90周年記念講演に登壇いただいた堀尾輝久さんは、つぎのように語っておられます。

「将来の準備のために現在を貧しくすることは、実はその将来をも貧しくします。未来は現在のうちに含まれ、現在は未来への選択によって方向付けられる」『教育入門』。堀尾さんは、これまでの自分も、これからの自分も、今の自分の中に入っており、今を大事にすることは未来への選択

にもつながっていると指摘されています。

寺田：私が読んだ本の中では、先生が気を付けるべきとおっしゃった論点のことも述べられていました。「バックキャスト思考」とでもいいでしょうか。

他方、「バックキャスト思考」は、「いまある制約を受け入れ、受け入れた状態から、どう楽しむのか。どう豊かに生きるのか。」という考え方であると紹介されていて、先生の言う「現在の中に未来がある」という話にリンクすると思います。

山本：言葉は以前から聞いていたが、これはもつと学びたい、広めたい考え方だと思えます。

荒井：まずは今を冷静に把握すること。そこからじゃないと未来への課

題がさがせない。

現状をリアルにとらえながら、それを悲観するのではなく、逆手にとつて楽しんでいく。この逆手にとる考え方が、センターの文化に合っているのではないのでしょうか。同じ生活するなら、みんなでわいわい楽しく、リアルな未来に続く、明るさを持って。

山本：たしかにそうですね。(笑)

寺田：ところでリアルな元気、未来に続く明るさを日常的に自分に落とし込むにはどういう感覚が必要でしょうか。

荒井：自分の胸に手をあて、本当に何が大事なのか、常に問い返すことだと、わたしは思います。

悩みながらも、自分自身が大事だと思ふこと、そして相手が大事だと思ふことについて、話しあっている関係をつくること、つまり学び続けることが必要です。「わからない」ままにいることは不安でしょう。

山本：学ぶことは、幸せになるためのひとりひとりの追求ということですね。

荒井：幸せとはなにかということ、考え続けるという話になると思いますが、苦しいことに向き合うところもある、でしょう。



▲『学び続け、考え続ける。』
荒井先生にその大切さを教えていただきました。



開設から50年、社会教育の実践機関として位置づけられてきた「ひの社会教育センター」ですが、時代と共に開く人もまた変化し、3世代を超えて利用されている場所になっています。

時と共に変化すること、変わらないもの。社会教育とは何なのか、社会教育に求められることは何なのか…こうした話題について今年度は、現場で日々活動に向き合う職員と、この分野を専門的にご研究されている東京都立大学(2020年3月までの首都大学東京)の荒井文昭教授との対談をお届けしていきます。

荒井文昭教授 プロフィール 専門研究分野：教育政治研究、教育行政学
社会教育協会の理事として、協会附属「市民の社会教育研究所」(2019年設立)の準備段階から携わり、現在、同研究所の副所長を務める。

所属 人文社会学部 人間社会学科 教育学教室 ・ 人文科学研究科 人間科学専攻 教育学分野
研究テーマ

1. 教育政治の研究 (だれが教育を決めてきたのか、だれが決めるべきなのか)、
2. 学校づくりと地域づくり (構造改革下における教育行政の動態調査)、
3. アジア・オセアニアにおける教育自治のあり方

幸せを追求する!! SDGsの取り組み

寺田：幸せの追求といえば、今、日野市はSDGsで盛り上がっていて、センターでも取り組み、来年度のスマイルタウンの企画にもしようと思っっているんです。

荒井：SDGsの目標は、誰も否定できません。悪い事は何ひとつ言っていないです。でも私は、違和感をおぼえる部分があります。

たとえば、貧困をなくす。これは誰も反対しない、しかし今の経済システムが貧困を作りながら、片方は貧困をなくすと言っていることに矛盾を感じます。

ところで、最近子ども食堂に関する文献を目にしたのですが、子ども食堂に求められていることは何だと思いませんか？

寺田：飢えさせない、食べる場所を提供するということだと思います。

荒井：たしかにそうですが、ただ食べ物を提供するだけでは、矛盾を小さくしているだけで根本的な解決にはならないですよ。

「どうして貧困がうまれるのか」ということに、当事者自身が気づいて、その関係を変えようとしていくこと」を支えることこそが大事になってくると思います。つまり、今の自分が置かれている状況から、それぞれがどうありたいかという目標

を定め、それを周囲が支えるということが求められているわけです。

SDGsは、リーダーたちがグローバルな会議で決めた共通の目標、という価値ももちろんありますが、えらい人が決めたのだから大事なことになるのだ、というところとどまっています。一人で、一人ひとりが、それぞれで大事だと思うことを目標にすればいいと思います。

寺田：貧困をなくそうという目標が、自分にとって、どうアプローチできるか、どういうプロセスを進めるか、一個一個考えるべき、ということですね？

荒井：ーそうです。そして自分の言葉でそれを表現し、少しずつ実践していくことが必要です。

山本：次年度のスマイルタウンの企画もわたしたちの言葉でつづっていく、みんなに考えてもらえるような記事になったらいいなと思っています。

1年間続けてきました「今さら聞けない!! 社会教育」シリーズは、今回で最終回です。さまざまな学びのきっかけを作ってください、ありがとうございました。

◆参考文献

堀尾輝久『教育入門』 岩波書店、1989年。

紙の講師は…

フラダンス講座
講師 アノラニ林 純子先生
(クウレイナニ・ポリネシアン
カルチャースクール所属)

プロフィール

センターでの講座は15年近く。初級の「はじめて」クラスと、上級の「ステップアップ」クラスで指導。

『アノラニ』は先生のハワイアンネーム。受講している方の中でも、10年以上の継続や、発表会への出演経験なども積み、ハワイアンネームを授与されている方もいるそうです。先生は「ひとつの目標にもなりますよね」とお話されています。

教室の様子

上級の「ステップアップ」クラスを取材。ツリーホールフロアは、広いスペースが確保でき、現在のような状況でも、みなさん休まず安心して通ってくださいようです。

色とりどりの衣装に身を包み、ハワイの心地よい音楽が流れると、みなさんの背筋がシュツとのびます。先生は、鏡越しにみなさんの動きをチェックしながら、常に声を掛けつつも、ご自身の笑顔も忘れません。

手や足の動きへのアドバイスもしながら、「その動き、いいですね!」というプラスの声かけも。すみずみまで目配りされている様子が印象的でした。



先生に聞きました!

「フラダンスは、思っている以上に下半身を使います。腰を落とし、おしりやももの筋肉も使うので、普段使わない部分を使うだけでも非日常ですよ。

そして、頭も使うんですよ。足は常にリズムカルに動かし、手は手話のように歌詞に合わせた何種類もの形があり、組み合わせで踊っています。そして、いつも皆さんに伝えるのは、いつでも笑顔で。今はマスクをしていますが、もちろんマスクの中でも。

発表会の衣装も、練習に着るものも色合いが明るく華やか。練習に来るだけで気分が明るくなるのではないかなと思います。」

最後に会員さんへの応援メッセージをお願いします!
『今は暗い世の中ですが、明るく前向きに、健康を維持しながら、がんばっていきましょー!』



↑さすがが上級クラスのみなさん、動きもびったりです。早く発表会で披露できる日が来ますように!

2021年度 2大イベントのお知らせ

世界一しあわせな国のおはなし お話し会

オンライン講座



講師：ピーターセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）

海老原さんは、元センターリーダーのえびちゃん。センターの事業、高齢者福祉視察の旅に参加し、20年前にデンマークへ。その後、デンマークへ留学、移住し、日本での講演活動などでも活躍中！

日々の生活、仕事、社会 etc...について生の声をデンマークからお届けします。

暮らしや生き方について考えるヒントが見つかるかもしれません。

ワークショップを取り入れ、みんなで学ぶお話し会です。

2回目以降のテーマも一緒に考えましょう。2回目以降はお好きなテーマの回にご参加ください。

日時 5月30日(日) 15:00~16:30 「はじまりの回」

参加費 550円

※初回のみ会場参加も可能です

申し込みスタート日など詳細はホームページで!!

今後の講座予定

日時 2回目 8月29日(日)「デンマーク×???'」

3回目 11月28日(日)「デンマーク×???'」

参加費 各回2,200円(早割り1,650円 先着20名限り、各日1週間前まで)



子どもたちと未来のために、地球を守る

“未来へのバトン”サミット 2021 が開催されます

気候変動 # 地球温暖化 # SDGs # 持続可能・維持可能 # 次世代へのバトン # 子どものためにできること



止まらない地球温暖化。

2030年までに現在の50%のCO2を削減できないと、地球は取り返しのつかない状況に陥ると予測されています。

このままでは、子どもたちや孫の世代に渡せる“バトン”は存在すら危ぶまれるかもしれません。環境問題は、結局のところ一人ひとりの意識と行動でしか解決できません。

“無理のない豊かな暮らし方”、“テクノロジー”、“教育”の視点から、今、私たちにできることは？すべきことは？

を考え、そして行動するサミットです。

各分野に精通した専門家と一緒に、講演とシンポジウムで考えます。



石田 秀輝 氏
地球村研究室 代表
東北大学名誉教授
星槎大学特任教授 ほか



村木 風海 氏
CRRA 炭素回収技術研究機構
機構長
発明家 イノベーター ほか



汐見 稔幸 氏
白梅学園大学名誉学長
東京大学名誉教授
日本保育学会会長
全国保育士養成協議会会長 ほか

講演：11月にオンライン配信予定

シンポジウム：11月27日(土)

会場とオンラインの並行開催で全国から参加可能！

今後スマイルタウンでも詳細を順次お伝えしていきます。

センターからのご案内



賛助会へのご協力 ありがとうございます

★順不同・敬称略

- ①個人会員 1口 1,000円
北村 正 3口
- ②団体会員 1口 5,000円

新館建設寄付者ご芳名

1/1~2/28 ご寄付いただいた方(順不同・敬称略)

高橋 紘

※ご希望によりお載せていない方もおられます。

たくさんの募金
ありがとうございます。
ごさいます。



募金総額 2/28 現在

412名+募金箱

¥25,040,163-

スマイルタウン発行：(公財)社会教育協会ひの社会教育センター
〒191-0062 東京都日野市多摩平 3-1-13 電話 042-582-3136

発行責任者：館長 入手番
FAX 042-581-0647